

―所蔵品の紹介―

まさえせいさい

牧江靖斎「七言絶句」

江戸時代、渡部の阿部家から糸魚川の牧江家に婿入りし、郷土文化の発展に貢献した靖斎の作品を紹介します。

〔原文〕

辛酉仲夏聞専立公有新婚
賦一絶以賀婿公稱星本誠是
父子永續之佳名也因未句及此

千筍葉繁支暑蒸
萬松枝古碧雲凌
佳名父子長相續
專立法嗣星本僧

靖斎山人

〔読み下し文〕

辛酉（文久元年・1861）の仲夏（陰暦5月）、専立寺さまに新たに婚儀があると聞いた。

絶句を一首作ってお祝いとする。

婿殿は星本という名で、誠にこれは父子永續の良いい名前である。

よって未の句にそれを詠み込んだ。

幾千の若竹は葉が繁り、蒸し暑さを防いでくれる

幾万の松の枝は年を経て、蒼雲を凌ぐほどになっている

良き名の父子は、長く寺を伝える

専立寺さまの跡継ぎは星本という名の僧

靖斎山人

〔資料の形態〕

和紙、墨書、軸装

解説 牧江靖斎のプロフィール

靖斎は、良寛研究家、詩人、歌人。

西蒲原郡分水町渡部（現燕市）出身、

文化14年（1817）生まれ、慶応4年

（1868）没。良寛の親友であり、援

助者でもあった阿部定珍の第九子・四

男で、幼名は九郎吉、俗名は定憲、通

称は忠右衛門といひます。靖斎のほか

に松醸の号を持ち、屋敷を「松醸館」と

名付けていました。

天保9年（1838）、22歳のときに

糸魚川の牧江家に婿入りし、造り酒家

（屋号・泉屋）を営み、銘酒「玉ノ井」

の醸造販売を手がけました。

青年時代、藍沢南城が南条村（現柏

崎市）に開いた学塾三餘堂で漢籍を学

び、特に漢詩や和歌に優れていたとい

います。また、良寛を師と仰ぎ、遺墨

等を収集保存し、遺詠を『沙門良寛師

歌集』『良寛尊者詩集』にまとめて後

世に残しました。

これらは、後に相馬御風が牧江家か

ら譲り受け、良寛研究資料として活用

しました（現在は当館所蔵）。

解説 牧江靖斎と専立寺

専立寺は、『西頸城郡誌 全』（新潟

県西頸城郡教育会編・昭和47・12・18）

に「西蓮寺の舊塔中」※で、「寛永七年

正月」の開基とあります。

所在地は現在の糸魚川市田海（西蓮

寺境内）、宗派は浄土真宗本願寺派、

名字は黒山氏。

昭和24年10月、本山に「解散届」を

出して寺業をやめ、約320年におよぶ歴

史に幕を閉じました。建物は、しばらく

青海町（現糸魚川市）の保育所とし

て利用されていましたが、昭和27年こ

ろに取り壊され、今は墓地等になって

います。

さて、靖斎が漢詩を贈ったのは、当

時の専立寺住職であった覚道。二人は

「お寺と檀家」という関係ではなく、

漢詩や俳諧など文芸趣味を同じくする

友人だったと考えられます。

覚道には、寺を継ぐ男子がいなかつ

たため、詩にある「星本」という人物

を婿に迎えます。星本は、糸魚川七間

町（現本町）本行寺住職の繁原戒聞の

二男で、天保12年（1841）生まれ、

明治29年没、享年56歳。専立寺に入っ

てからは覚音と名乗りました。

なお、この作品が専立寺ではなく、

靖斎の手元に残ったのは、これが清書

ではなく、下書きであったからです。

語句の付け足しや書き直しがあられ、落

款がないのはそのためでしょう。

※塔中（塔頭）―小寺院、脇寺

〔付記〕

調査にあたり、財団法人斯文会、西

蓮寺の黒山秀映さん、若林節子さん、

静岡県良寛会の反町タカ子さん、河合

雅子さんからご教示いただきました。

お礼申しあげます。

